

平成30年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

平成30年11月12日（月曜日）

開 会 午後 4時58分

閉 会 午後 5時12分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 高齢者住宅の現状と今後の方向性について
-

○出席委員（6名）

委員長 広地紀彰君

副委員長 本間広朗君

委員 氏家裕治君

委員 森哲也君

委員 山田和子君

委員 松田謙吾君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

○職務のため出席した事務局職員

主 査 小野寺 修 男 君

書 記 葉 廣 照 美 君

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） ただいまより産業厚生常任委員会を開会いたします。

（午後 4時58分）

○委員長（広地紀彰君） 所管事務調査といたしまして、高齢者住宅の現状と今後の方向性についてということで、本日はこれまでの担当課からの説明及び皆さんからの意見徴収を経て、共同住宅すまいの一むを視察し、その設立経緯や運営についての調査を行ったところでした。

それを踏まえまして、調査の中では、町として軽費で入れる施設を実施させていくべきか等々について意見交換等もなされたかと思えます。感想を含めてでも結構ですので、きょうの視察を含めたご意見等々いただきたいと思えますが、ご意見のある方はどうぞ。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） きょう視察させてもらって、サービス付き高齢者住宅のこの住宅単体での運営というのは本当に難しいものがあるとつくづくわかりました。

今回、視察したところの会社の社長さんがもともとケアマネジャーをやっていた方でして、そういう方々の今までの知識と経験と必要性を感じてできているものなのだとということがよくわかったし、このサービス付き高齢者住宅を運営するにあたっては、さまざまな事業を統合していかないと、相対的な運営として持っていかないとできない事業なのだとということもよくわかりました。特に生活保護世帯でも入ることができる。そうした住宅というか共同スペースのようなものが設けられている土台の中で、こういった形のものでできているということが、白老町で果たしてできるのかどうかということが一番の課題で、特に労働者不足、支える側の労働者不足というのが白老町の課題になってくるでしょうし、そういう相対的なサービスを提供できるような、仕組みがうまくできるのであればこういったサービス付き高齢者住宅というもの考え方というもの白老町にとっても大事になってくるだろうと思えます。

きょうはその必要性と今後もしそういったものができたときとの課題と運営、そういったものが若干ではありましたがわかったような気がしました。

○委員長（広地紀彰君） 必要性と課題についてということで、実態を見ながら整理をされてきたという観点からのご意見でしたが、ほかの委員の方からもご意見頂戴できればと思います。

山田委員。

○委員（山田和子君） 訪問介護サービスとか、居宅介護サービスをやられていて、きょうの社長さんが思いを持って始められたサービス付き高齢者住宅であるから、温かい雰囲気の中で皆さん暮らしているというのを実感してきたのですけれども、本町において公営住宅がかなり古い状況になっているので、自治体として公営住宅を持っていくことが今後、非常に厳しいだろうと感じているので、その代わりになるような施設ということでサービス付き高齢者住宅をというふうに考えまして、このように所管事務調査に入っているわけなのですが、やはり子供も少なくなりますから白老食育防災センターの給食をつくる能力も考えながら、配食サービスも将来的にはあちらのほうでやっていくということも踏まえて、経費を安く上げながらサービス付き高齢者住宅をできるアイデア

があるのではないかと考えておりますので、そういういろいろなヒントをもらいながら、白老町独自のシステムを開発することも可能だと思うので、考えていきたいと感じました。

○委員長（広地紀彰君） 白老町としてどうやって、こういった軽費で入れる施設を充実させていくのか、その支援のあり方というお話もさまざまありましたが、その具体策の一つとして食育防災センター等も活用しながら、配食支援サービス提供できる体制づくり等も含めて、こういった仕組みがつかれるのかという部分。今までなかなかない観点からのご意見だと承りました。これでもし有効活用が図られれば本当に1,400食の製造能力を、今度はお年寄りに向けて發揮していくと。当然仕入れの量も規模が違いますので、スケールメリットの部分踏まえても今のご意見、私自身も非常に興味深く拝聴していました。

ほかの委員はいかがですか。

森委員。

○委員（森 哲也君） 少し感想も入ってしまうのですけれども、サービス付き高齢者住宅の建物だけでは経営も難しいというお話も聞けたのですけれども、そこで付随して小規模多機能型やヘルパーの事業所などくっつくということで、サービス付き高齢者住宅があることで、そこで何かほかのサービスについて、何となく地域包括ケアシステムの形みたくなっているのかなど。職員不足の問題の出てくると思うのですけれども、ひとつのサービス付き高齢者住宅が建ったことで周りのサービスも埋まったのかなという感想を抱いたのと、やはり生活保護の方でも1万円くらい余るといことなので、本当に生活に困窮している方だけでなく、要介護者以外の方も入居しているといことなので、本当に高齢者対策にもなる施設なのだということを施設を見て実感しました。

白老町においても、やるやらないというのは町が決めることではないかもしれないのですけれども、町民の方に需要があるのかなのかアンケートが取れるのであればとって、町民の声を聞くといこと必要なのかと感じました。

○委員長（広地紀彰君） 実際にどれだけの割合で、どの程度の費用負担でといった部分含めて、調査を行った上で白老町民が求めている施設の姿を見出していくと、そういった観点からも需要がないか調べていくと、要望事項とか。調整事項についてご意見頂戴しましたけれども、こういったところでよろしいでしょうか。

本間副委員長。

○副委員長（本間広朗君） 白老町も高齢化率40%を超えていますので、おそらくまちとしての、ここに住んでいる方の今回見てきたサービス付き高齢者住宅の必要性というのはまちも感じていると思うし、住民も今後もしそういう施設があれば入りたいという方も実際にいると思います。所管をとって課からお話をお伺うと受け身のような感じで、民間から来たら相談にのりますというような、受け身のような感じにどうして受けられて、冒頭にも言いましたけれど、必要性というのはまちとしても認識していると思いますので、まちとしても積極的にやらなければ、委員の方からもいろいろな意見も出ましたけれども、高齢化の対策としてまちとしてももっと積極的に動いた方が私はいいと思います。今回苫小牧に行って女性の方がケアマネジャーをやって、そのような経験から、そういう方が肌で感じて施設をつくったというのは素晴らしいことだと思います。なかなか踏み切れないと思いますので、先ほど皆さんも言ったようにまちが後押しをして、支援体制などもや

っていくべきだと私は思います。

○委員長（広地紀彰君） これまでの中でも本間副委員長のほうからもあったとおり、町としてもなかなか反映されていないし、課もまたいでいますし、もっと正義的な部分見出していく必要があると思います。やりたい人がいたら支援体制や提供できるものをもっと積極的にしていくべきだという意見、今までと共通するような意見だと拝聴しました。このような意見をまとめてほかに意見がなければ、正副委員長のほうでまとめさせていただいて、また各委員のほうに目をとおしていただいた上で最終的な報告ということで進めていければと思うのですがよろしいでしょうか。そのように取り扱いをさせていただき、まとめたうえで報告を出したいと思います。

それでは、ほかにご意見等々ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） それでは、これをもちまして所管事務調査を終了といたします。どうもご苦労さまでした。

（午後5時12分）